
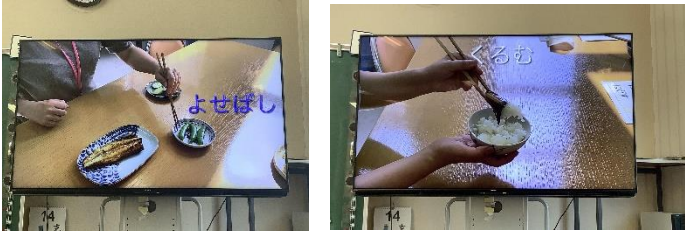


ICT を活用した学習場面

A 1 教員による教材の提示

特別活動	1年2組 姫野 麻依
題材名 おはしめいじんになろう	
本時のねらい： 箸使いについて、栄養教諭から正しい箸使いで食べる良さや箸の持ち方を教わったり、ご飯に似せた物を挟んだり寄せたり摘んだりすることを通して、正しい箸使いで食べられるようになるために取り組むことを意思決定できるようにする。【学級活動（2）エ】	
評価規準： 正しい箸使いで食べられるようになるために取り組むことを理由とともに意思決定している。【思考・判断・表現】	

指導の流れ

児童の活動（ICT 活用の様子）・ICT 活用のねらいや留意点	
<p>1. 【つかむ】 ご飯粒が残っている食器の写真を見て、感じたことを出し合う。その後、ご飯粒を残さず食べることの難しさについて経験を出し合い、めあてを考える。</p> <p>2. 【さぐる】 栄養教諭から、正しい箸の持ち方を教わる。担任と正しく持てているかを確認する。</p>	
	<p>・栄養教諭は iPad で手元を映しながら正しい箸の持ち方や動かし方を実演することで、子どもたちの困りなどの眩きを反映させながら持ち方のポイントを一つ一つを確認できるようにする。iPad の映像は、テレビと連携することで、全員が指の細部まで確認できるようにする。</p>
<p>3. 【みつける】 正しい持ち方で、ご飯粒を挟んだり、寄せたり、摘んだりする。</p> <p>4. 【きめる】 練習の成果や課題をもとに、「おはしめいじんのみち」の項目（レベル1はさむ、レベル2よせる、レベル3つまむ）から、今日のお弁当で挑戦したいことを一つ決めワークシートに○をつけ、理由を書く。</p> <p>5. 栄養教諭から、今日のように正しい箸の持ち方ができると箸の技が増えることや箸の技の種類、正しい箸の持ち方でもマナー違反になる箸の使い方について動画説明を受ける。その後、本時のふり返しを行う。</p>	
	<p>・栄養教諭が動画を流すことで、箸の技と箸使いのマナーについて動きで確認できるようにする。</p>
<p>【事後】 授業日のお弁当で取り組む。取組の振り返りを発表し合う。</p>	

ICT 活用の効果（困りが解決されたか）

<p>成果： 箸の正しい持ち方について、箸が動く掲示物では指の基本の動きしか確認できなかったが、ICT を活用することで、手の甲から見た動きや箸の先から見た指の位置など様々な視点から確認することができた。また、実演が効果的な場面（正しい箸の持ち方の確認）と、動画鑑賞でも効果的になる場面（箸の技の種類、マナー違反となる箸の使い方）で見せ方を分けたことで時間が短縮され、児童の活動の時間が増えた。</p> <p>課題： 実演にすることによって、箸の持ち方を見せながら児童へ支援することが難しいため、この活動はT 2 以上でなければ指導が難しい。</p>
